

令和 8 (2026) 年度 病害虫発生予報 第 6 号

令和 8 (2026) 年 9 月 18 日
栃木県農業総合研究センター
環境技術指導部

予想期間：9 月下旬～10 月下旬 予報の根拠で、(+) は増加要因、(-) は減少要因を表す。

1 いちご うどんこ病

- (1) 発生予想 発生量：多い
- (2) 根拠
 - ・現在の発生量は多い (+)
 - ・向こう 1 か月の気温は高く (+)、降水量は平年並か多い (±～+)、日照時間はほぼ平年並 (±) の見込み
- (3) 対策
 - ・予防を主体に、葉裏にもよくかかるように RAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。
 - ・本ぽで発生した場合は保温開始までに防除を徹底する。

2 いちご ハスモンヨトウ

- (1) 発生予想 発生量：平年並
- (2) 根拠
 - ・現在の発生量はやや少ない (-)
 - ・向こう 1 か月の気温は高く (+)、降水量は平年並か多い (±～-)、日照時間はほぼ平年並 (±) の見込み
- (3) 対策
 - ・作物の各部をよく観察し、早期発見に努める。
 - ・幼虫の齢期が進むと薬剤が効きにくくなるので、若齢幼虫のうちにプレオフロアブル (RAC コード I:UN)などを散布する。
 - ・薬剤の浸透性を高める展着剤の利用が有効である。
 - ・卵塊や分散前の幼虫は、寄生葉ごと摘み取り、発生源とならないように適切に処分する。

3 いちご ハダニ類

- (1) 発生予想 発生量：多い
- (2) 根拠
 - ・現在の発生量は多い (+)
 - ・向こう 1 か月の気温は高い見込み (+)
- (3) 対策
 - ・ハダニ類は葉裏に寄生するため、薬剤散布時は薬液が葉裏に付着するように散布する。
なお、化学農薬に対する感受性低下が起りやすいため、必ず RAC コードの異なる薬剤をローテーション散布するとともに、抵抗性の発達しにくい気門封鎖剤を活用する。
 - ・天敵導入時にハダニ類が多いと失敗しやすいので、天敵導入前に気門封鎖剤や天敵に影響の小さい薬剤を散布し、ハダニ類の増殖を抑制しておく。
- (4) 備考
 - ・ナミハダニ(いちご)の薬剤感受性検定結果を当センターHPに掲載中

4 いちご アザミウマ類

- (1) 発生予想 発生量：やや多い
- (2) 根拠
 - ・ 9月第1半旬までの青色粘着板への誘殺数は平年並（±）
 - ・ 向こう1か月の気温は高く（+）、降水量は平年並が多い（±〜+）、日照時間はほぼ平年並（±）の見込み
- (3) 対策
 - ・ 開花の早いほ場では、被害が発生・拡大しやすいため、花を注意深く観察し、発生が認められたら早期に薬剤防除する。
 - ・ 施設周辺の除草を徹底する。
- (4) 備考
 - ・ 今後ハダニ類の天敵を導入するほ場では、天敵に影響がない、あるいは少ない防除薬剤を選択する。
 - ・ いちごに発生したヒラズハナアザミウマに対する主要薬剤の殺虫効果、いちごときくに発生したアザミウマ類の薬剤感受性検定結果、続報を当センターHPに掲載中

5 果菜類 コナジラミ類（トマト：黄化葉巻病（TYLCV）、黄化病（ToCV）・きゅうり：退緑黄化病（CCYV））

- (1) 発生予想 発生量：多い
- (2) 根拠
 - ・ 現在のきゅうりのコナジラミ類の発生量はやや多い（+）
 - ・ 向こう1か月の気温は高く（+）、降水量は平年並が多い（±〜+）見込み
- (3) 対策
 - ・ ウイルスを媒介するコナジラミ類の侵入を防ぐため、ハウスの開口部（出入り口、側窓、天窗）に 0.4mm 目合以下の防虫ネットを展張し、特に出入り口は二重にする。
 - ・ 黄色粘着板の設置により、コナジラミ類の早期発見に努める。
 - ・ 黄化葉巻病の耐病性品種であっても、感受性品種と同様に、コナジラミ類を適切に防除する。
 - ・ ウイルス病の発病株は見つけ次第抜き取り、土中に埋設するか、ポリ袋などで密封し枯死させてから処分する。
 - ・ 薬剤抵抗性の発達を防ぐため、RAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。
- (4) 備考
 - ・ 病害虫防除対策のポイントNo.22、タバココナジラミ類薬剤感受性検定結果を当センターHPに掲載中

6 ねぎ 黒斑病・葉枯病

- (1) 発生予想 発生量：やや多い
- (2) 根拠
 - ・ 現在の発生量は平年並（±）。
 - ・ 向こう1か月の気温は高く（+）、降水量は平年並が多い（±〜+）、日照時間はほぼ平年並（±）の見込み
- (3) 対策
 - ・ 発生初期の防除に重点を置く。多湿条件で発生しやすいため、秋雨期や曇雨天が続く場合は発生に注意して防除を行う。
 - ・ 窒素過多は病害が発生しやすいため、適正な肥培管理を実施する。
 - ・ 残さは、ほ場外に持ち出し適切に処分する。

7 野菜類・花き類 ハスモンヨトウ

- (1) 発生予想 発生量：平年並
- (2) 根拠
 - ・フェロモントラップへの誘殺数はやや少ない（－）
 - ・向こう1か月の気温は高く（＋）、降水量は平年並が多い（±～－）見込み
- (3) 対策
 - ・ほ場周辺の雑草は増殖源となるため、除草を徹底する。
 - ・施設栽培では、開口部に4mm目合以下の防虫ネットを展張し、侵入を防止する。
 - ・葉裏をよく観察し、早期発見に努める。
 - ・卵塊や分散前の幼虫は、寄生葉ごと摘み取り、発生源とならないように適切に処分する。
 - ・幼虫の齢期が進むと薬剤が効きにくくなるため、発生初期の若齢幼虫のうちに薬剤防除を行う。
 - ・薬剤抵抗性の発達を防ぐため、RACコードの異なる薬剤をローテーション散布する。

8 野菜類・花き類 オオタバコガ

- (1) 発生予想 発生量：多い
- (2) 根拠
 - ・フェロモントラップへの誘殺数はやや多い（＋）
 - ・向こう1か月の気温は高く（＋）、降水量は平年並が多い（－～±）見込み
- (3) 対策
 - ・ほ場周辺の雑草は増殖源となるため、除草を徹底する。
 - ・施設栽培では、開口部に4mm目合以下の防虫ネットを展張し、侵入を防止する。
 - ・新しい食害痕や虫ふんを目印に早期発見に努め、発見したら速やかに防除する。
 - ・薬剤の浸透性を高める展着剤の利用が有効である。
 - ・摘除した果実や脇芽等の残さは発生源となることがあるため、ほ場外へ持ち出して土中に埋設する等、適切に処分する。
 - ・発生ほ場では、土中に残る蛹を殺すため、栽培終了後、速やかに十分耕耘する。

9 きく ハダニ類

- (1) 発生予想 発生量：やや多い
- (2) 根拠
 - ・現在の発生量は平年並（±）
 - ・向こう1か月の気温は高い（＋）見込み
- (3) 対策
 - ・ほ場をこまめに観察し、増殖する前に防除を行う。
 - ・化学農薬に対する感受性低下が起りやすいため、必ずRACコードの異なる薬剤をローテーション散布するとともに、抵抗性の発達しにくい気門封鎖剤を活用する。
- (4) 備考
 - ・ナミハダニの薬剤感受性検定結果を当センターHPに掲載中

10 その他の病害虫

作物名	病害虫名	現況	発生予想	作物名	病害虫名	現況	発生予想
いちご	炭疽病	やや少	平年並	きゅうり	アブラムシ類	やや多	多い
	アブラムシ類	多	多	なす	アザミウマ類	平年並	やや多
きゅうり	べと病	平年並	やや多	ねぎ	シロイシジヨウ	少	やや少
	褐斑病	平年並	やや多	きく	アブラムシ類	平年並	やや多

○ 今後の病害虫対策

- (1) **水稻 縞葉枯病（媒介昆虫：ヒメトビウンカ）、黄萎病（媒介昆虫：ツマグロヨコバイ）、イネカメムシ、スクミリンゴガイ**
 - ・再生稲（ひこばえ）は、イネカメムシの秋の生息場所や餌になる他、縞葉枯病や黄萎病が発生したほ場では、媒介昆虫であるヒメトビウンカやツマグロヨコバイの増殖源および病原の獲得源になります。収穫後は速やかに、丁寧な耕起を行いましょう。
 - ・ヒメトビウンカやツマグロヨコバイの越冬場所をなくすため、畦畔等の除草を徹底しましょう。
 - ・スクミリンゴガイは秋から冬に水田の土中で休眠します。発生ほ場では、耕起により貝を破碎し、防除しましょう。また、厳寒期(1～2月)にも耕起を実施し、貝を寒風にさらすことで殺貝効果を高めましょう。
- (2) **麦類 種子伝染性病害**
 - ・オオムギ斑葉病や小麦なまぐさ黒穂病、ムギ類黒節病等の防除のため、種子消毒を必ず行いましょう。オオムギ斑葉病は遅まきすると、ムギ類黒節病は早まきすると発病が多くなるため、適期には種を行いましょう。
- (3) **なし 黒星病・炭疽病、りんご斑点落葉病・褐斑病**
 - ・病原菌は芽や落葉で越冬し、翌年の発生源となります。収穫終了後は徒長枝の先端までまんべんなく薬液がかかるよう丁寧に薬剤散布を行いましょう。防除の際は周辺へ飛散（ドリフト）しないよう十分注意しましょう。
 - ・ナシ炭疽病薬剤感受性検定結果、リンゴ褐斑病薬剤感受性検定結果を当センター HPに掲載中です。
- (4) **トマト等 トマトキバガ**
 - ・ほ場内をよく観察し、疑わしい虫や被害を見つけた場合には、適切に薬剤防除を行いましょう。施設栽培では、本害虫の施設内への侵入防止のため、ハウス開口部に 0.4mm 目合いの防虫ネットを展張しましょう。
 - ・令和 7 (2025) 年度植物防疫ニュース No. 3を当センターHP に掲載中です。
- (5) **収穫終了後の残渣処理**
 - ・収穫終了後は病害虫の拡散を防ぐため、残渣を放置せず、速やかに適切な処理を行いましょう。

○ 農薬の安全使用等

- (1) **薬剤抵抗性発達の抑制**
 - ・薬剤で防除する際には、RAC コードの異なる薬剤をローテーション散布しましょう。
- (2) **有用生物への影響に留意**
 - ・花粉媒介昆虫（ミツバチ、マルハナバチ）や天敵に対する影響日数に注意して薬剤を選択しましょう。
- (3) **農薬適正使用の徹底**
 - ・農薬は適正に保管・管理しましょう。
 - ・農薬を使用する際は、容器のラベルに記載された内容を遵守し、農薬による事故等の発生を防ぎましょう。
 - ・薬剤散布の後には必ず作業内容を記録し、防除履歴を作成しましょう。
 - ・農薬の総使用回数は有効成分ごとに定められています。ラベルを十分確認し、有効成分ごとの総使用回数を超えないよう適正に使用しましょう。

○ **1か月気象予報**（予報期間：9月19日～10月18日 9月17日 気象庁 発表）

- ・暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高いでしょう。
- ・9月上旬から日照時間が少なく、降水量が多い状態が続いています。期間のはじめは秋雨前線や湿った空気の影響を受けやすいため、降水量が多く、日照時間の少ない状態が続く見込みです。向こう1か月の降水量は平年並か多いでしょう。

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（％）

項 目	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気 温	1 0	3 0	6 0
降 水 量	2 0	4 0	4 0
日照時間	4 0	3 0	3 0

○ **お問い合わせ等**

- ・詳細は農業総合研究センター環境技術指導部防除課（Tel 028-665-1244）までお問合せください。
- ・病虫害情報発表のお知らせは、X「栃木県農政部(@tochigi_nousei)」、農業総合研究センターHP（<https://www.pref.tochigi.lg.jp/g59/index.html>）でも御確認いただけます。
- ・カメムシ防除作戦HP（<https://www.pref.tochigi.lg.jp/g05/kamemushi.html>）も御確認ください。



X「栃木県農政部」



農業総合研究 HP



カメムシ防除作戦 HP